

運に恵まれた経営

1996(平成8)年に合弁会社として操業を開始した「イトーフォーカス」と別離し、独資企業として経済特区で再スタートを切ったのは2003(平成15)年のことだ。以来、合弁時代には考えられないような力強い会社で成長し今日に至っている。海外では離職率の高いことが企業の悩みと言われているが、当社では無縁だ。その理由を振り返ってみよう。

フィリピンは400年余り植民地として外国に支配されてきた。国民は外国人に厳しく支配され、怯えてきた歴史がある。彼らと同じ目線で接し、本社同様に家族的な雰囲気を取り入れたことが大きな効果を生んだ。合弁時代に私が社員にマジックを披露すると、

伊藤製作所社長

伊藤 澄夫 30

ITO-SEISAKUSHO PHILIPPINES CORPORATION
の社員たち

日系企業は大人気

当時のシー 築が決まった時、社員に「遠くなる社長は、がついて来てくれるか」と問いかけた。「イトウサ ところ、70%の社員に拒否された。あ、そんな わてて40人の社員を採用したが、ちょっとをする うどその時期に出資を合弁から独資へと社員が付 と変更することが決まった。それを知 け上がる った途端、全社員が新会社に合流したぞ」と言う と言いだしたのだ。

のだ。私は さすがに全員を連れて行くわけには「誰がその いかないで全90人の中から25人を選 ように思う 別し、残りは現地で募集することな のか」と反 った。これが当社の運の良さにつなが 論し、よく ったと考えている。人格と健康面、技 もめた。 術の良い者だけを選べたことで離職の 経済特区 ない会社になったのだろう。中小企業 での工場建 であっても日系独資の企業はフィリピ

ンでは信頼がある。その意味でも中小企業の進出先としてフィリピンは有力な候補地として推薦したい。

新会社になって、社員の誕生日には ケーキとフライドチキンを持たせ、「忙しくても定時で帰り家族と楽しみなさい」と伝えている。これが日本であれば、御礼を言われる程度だが、現地では「私のうれしい誕生日に会社が ケーキをくれるとは、なんて良い会社なのだとなる。その後もこういった配りを駐在員に続けてもらっている。会社を成長させるための大きな要素は、社員のレベルで決まると考えてきた。新会社になって4年目に利益が増えたことから、決算賞与を支給することにした。経理責任者が「イトウサン、離職がないので、将来の退職金が大変だ」とうれしい悩みを訴えてきた。